

春日若宮 おん祭り

奈良

散策

其の壱



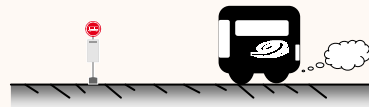
2008年12月17・18日



季節は冬、誰もが気忙しい師走。

奈良の歳末を飾る一大祭事として、人々に親しまれている‘春日若宮おん祭’へと足を運びました。

いつものように、高速バスに乗り、奈良を目指します。徳島から4時間余り。もう、旅慣れた道のりです。



■ 今回の旅の目的、

‘春日若宮おん祭’とは

春日大社の摂社・若宮神社の祭礼で、春日大社の本祭・春日祭とは別に大和国一國を挙げて盛大に行われてきたそうです。

若宮は春日大社本社の御子神をおまつりし、水徳の神・学問芸能の神として、厚く信仰されてきました。

平安時代末期、保延二年(1136年)に時の関白であった、藤原忠通が天下泰平、五穀豊穰、万民和樂を祈願して始められ、今日まで一度も途絶えることなく続いている由緒あるお祭りだそうです。国の重要無形民俗文化財に指定されていて、今年で873回目を迎えます。

中心神事は12/15～12/18まで行われます。



奈良に到着はお昼前。‘おん祭’のメインイベント、‘お渡り式’にめちゃめちゃいいタイミングです。

‘おん祭’では、ご神霊の行列ではなく既に行宮へ遷られた若宮神のもとへ、芸能集団や祭礼に加わる人々が社参する行列のことを‘お渡り式’というそうです。

■ 県庁前広場から出発する行列は、登大路を西に下り、近鉄奈良駅より油坂を経て、JR奈良駅前からまっすぐ東へ三条通りを登り、一の鳥居を目指します。

どこで、どんな風に見物したらいいのかよく分からなかったのですが、とりあえずは出発地点へ。重い荷物は、例のごとくコインロッカーに放り込み、12時出発の行列を見るために、急いで県庁前広場、旧興福寺境内へと移動しました。

登大路から近鉄奈良駅の辺りは、すでに行列を待つ人たちの姿でいっぱい。

‘この辺りの方がいいのかなあ…’とも思いながら初志貫徹！県庁前広場へ。

旧興福寺境内には、行列に加わる人たちがたくさん！いろいろな装束に身を包み、順番を待っています。心の中で、‘あんな装束を着てみたい’って思いながら、行列の出発を待ちました。行列は新しく加えられた前行列を除いて、平安時代から江戸時代に至る風俗を色濃く残した一番から十二番までの伝統行列です。



行列には、加わる人々の順序が決まっています、春日大社の係員の方が手際よく、幟や傘、騎馬等を配置し、形作られていきます。すべてにおいて、配列通りに行列を作りあげていくのも、本当に大変だと思いました。しかも、社参する人の数は千人余りになるそうです。まさに、大和一国を挙げての一大祭事だと思いました。

行列のでき上がるのを見届け、興福寺境内を抜けて、猿沢池へ。
場所をかえて、行列の到着を待ちます。

すでに、猿沢池の辺りは人・人・人。県庁前広場とは比べものにならない位の、人出でした。

何とか見物場所を確保し、スピーカーから流れるアナウンスを聞きながら、待つこと数十分。行列の先頭が見えてきました。

出発地点では、かなりばらけていた行列が、ちゃんとしたものになっているのか心配していましたが、さすが！どンドン、後ろに人波が続いています。

県庁前で行列の舞台裏を見て、猿沢池では完成した行列を見る。

違った雰囲気を楽しめ、二度美味しい気がします。

ぜひ、試していただきたいと思います。

行列は興福寺南大門跡で、南大門交名の儀をすませ、そのまま一の鳥居をくぐり、松の下式を終えると、お旅所(若宮様の仮御殿)への参入が許されます。

その後、競馬、稚児流鏝馬と続き、おん祭の中心行事‘お旅所祭’へと祭典を斎行します。

■ちょっと、遅くなりましたが、お昼ご飯タイムです。

お腹のピークはどうに過ぎていて、しかも今日はめちゃめちゃ寒い…。何時間も外で立っていると、足の感覚もなくなっていました。

しかも、寒さと空腹に疲れが増してきました。早く、お昼ご飯…。とすることで、興福寺境内にある、茶粥の名店、‘塔の茶屋’を訪ねました。

石段を上ると、茶粥の古い趣のある看板が目に入ります。

境内に違和感なく存在して、景観を全く損なわないお店だと思いました。

店内は約 200 年前の宇治橋の古材を使用しているとか…。

入口を入ると、正面にお店の方が座っていて、ちょっと、びっくりしました。

靴をぬいて、廊下を通り部屋へと案内してもらいました。

外観もそうですが、店内も簡素な造りで、時間の流れが止まっているかのような、穏やかな空間でした。

通されたのは、座布団が敷かれただけの、和室。こちらでは、盆の上に置かれたお料理を、正座していただくようです。



— とう ちゃや —
塔の茶屋

■ アクセス

近鉄奈良線近鉄奈良駅から徒歩7分

TEL 0742-22-4348

定休日 火曜日





お料理は‘茶粥弁当’をいただきました。内容は茶粥とかゆ桶に盛られた、約 20 種類の品々と吸い物、茶豆腐、わらびもちでした。

無農薬の大和茶を使った、温かい茶粥は冷えた体にはとっても、うれしい一品。身も心も一気に温まりました。地元産の野菜を使った炊き合わせ等は、上品な味で見た目にも美しく大満足でした。


デザートのはらびもちも、今まで奈良で食べた中で一番美味しかった気がします。

お料理もさることながら、普段と違った雰囲気を楽しめるお店だと思います。

お腹もいっぱいになったところで、外はほんとに寒いけど、意を決して出発です。

興福寺から春日大社の一の鳥居をくぐり、‘お旅所’を目指します。

お旅所には、正面の一段高い所に若宮神の行宮があり、その前に小高い約 9 メートル四方の芝舞台があります。

‘お旅所祭’とは… 

おん祭の本番ともいうべき中心行事。仮御殿へ御遷りになられた若宮様の御前、芝舞台の上で、厳粛な祭典を斎行します。

ちなみに、芝舞台の上での祭典は芝居という言葉の語源と言われているそうです。

‘お旅所祭’は午後 2 時半から始まります。行列が参道を通り、お旅所に到着します。官司が御幣を捧げ、祝詞を奏上したのち、各団体等の礼拝が行われます。

その後、3 時半頃から神遊(かみあそび)が行われます。

神楽・東遊・田楽・細男(せいのお)・神楽式・和舞(やまとまい)・舞楽と、午後 11 時近くまで各種芸能が奉納されます。

正装した巫女さんによる雅楽をはじめ、東遊・田楽と芸能が奉納されていきます。どれもゆっくりしたテンポで、優雅な舞ぶりは、古の世界へと誘われます。

どの装束も美しく、それぞれに全く趣が違っていました。

また、それぞれの時代の歴史を見ることが出来るような気がします。

■翌日は奈良国立博物館へ。

12/6～1/18 まで特別陳列‘おん祭と春日信仰の美術’を開催中！

おん祭にまつわる絵画や文献資料、芸能資料等を展示しています。

展覧会では、脈々と伝え受け継がれてきた伝統ある祭の歴史を感じる事が出来ます。

現在まで大切に守り抜かれてきたものだからこそ、計り知れない価値があるのだと思います。

それもまた、人々の神々への信仰の深さ、春日信仰の厚さを改めて感じました。

奈良国立博物館を後にし、奈良公園を望むロケーションがステキな、‘吉茶 下下味亭’でランチを。古い民家を使ったレトロなカフェです。

ここでも、緩やかな時間が流れていました。





塔の茶屋&吉茶 下下味亭 MAP



— きつぎ かがみてい —
 吉茶 下下味亭
 ■ アクセス
 近鉄奈良線近鉄奈良駅から徒歩 10 分
 TEL **0742-26-2338**
 定休日 月曜日

お昼をすませたら、おん祭の日程最終の奉納相撲と後宴能です。
 奉納相撲は午後 1 時から、お旅所の南側、特設土俵にて行われます。現在は奈良県相撲連盟、奈良市体育協会、奈良市相撲協会の協力のもと執行されているそうです。

今は儀礼的なものになっているようですが、長い歴史の中でのだんだんと変化をしていったのかとも思います。かつては、真剣に勝負がされていたのではないかと…。

午後 2 時から、お旅所にて後宴能が行われます。
 今年は能 東北、狂言 呼声、能 項羽が舞われました。
 時間の都合上、‘東北’ だけしか見ることは出来ませんでした、実際に生で能を見るのは初めてでした。

ただ何となく、芝舞台に現れた人物の動きを見ていました。独特の雰囲気と、ゆったりとした流れに、現在との時間の流れの速さの違いを痛感しました。

■ 徳島に帰ってからいろいろと能楽について調べてみました。
 能楽にはそれぞれの職掌があり、演じる題目もかなりたくさんあることを知りました。
 見る前に、能楽について最低限度の知識を持っていた方がいいと思います。そうすれば、もっと古典芸能を楽しめたのかなぁ…と。

今回は 870 年余り、一度として途切れることなく続いている ‘春日若宮おん祭’ を感じてきました。

奈良の人々が大切に継承してきた往事の姿をとどめるおん祭は、まさに大和一国の大祭であると思いました。過去から現在、そして後世へと伝えていかなければならない、使命をもおびていると思います。

奈良には、伝統がたくさん根付いています。それを守り継承していく、大変さは我々には想像できないほどだと思います。

子供大名行列はおん祭を支え、伝えていく次世代の担い手だと言っていました。
 環境が人を創っていくのだと思いました。そしてその環境を守っていくのも、人であることを改めて感じました。

過去と現在、そして未来が同居する不思議な街、奈良を訪ねてみませんか？
 そして、あなただけの ‘古都’ を感じてみませんか？

